

第4回 デフリンピック運営委員会
(議事概要)

1 開催日時

2023 年 12 月 18 日 (月) 10 時から 10 時 50 分まで

2 開催場所

戸山サンライズ全国障害者総合福祉センター 1 階小会議室及びオンライン

3 構成員等

○委員 (構成員)

委員長 久松 三二 (一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事)
石原 保志 (国立大学法人 筑波技術大学 学長)
延興 桂 (公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長)
畑中 淳子 (弁護士)
早瀬 久美 (デフリンピック選手)
薬師寺 道代 (医師)
横山 英樹 (東京都生活文化スポーツ局長)
太田 陽介 (一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事) ※欠席

○事務局

倉野直紀 (一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会事務局長)

4 要旨

【事務局 説明】

- ・11 月の第3回運営委員会では、運営委員会の諸委員会の委員選定等や開催基本計画の策定について皆様にご確認承認を頂いた。
- ・本日は、大会基本計画を踏まえた今後の対応について議論いただきたい。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・それではこれより次第に基づき議事に入る。まず、大会基本計画を踏まえた今後の対応について説明させて頂く。

○議題 (1) 大会基本計画を踏まえた今後の対応について

(清水部長 (東京都))

- ・先般、大会基本計画を策定した。そちらを踏まえ、今後の対応として主に経費面について、大会規模 (計画額) として取りまとめて公表したいと考えている。まず概要として、大会開催がインクルーシブな街・東京の実現に貢献、また、シンプルで心に残る大会とするとともに、共生社会の実現に繋げていくなどと考え方を整理した。そのうえで、主な支出、収入項目について説明する。
- ・大会規模 (計画額) の取りまとめにあたって大会の考え方について整理した。東京大会は共生社会の実現に寄与する意義を有した大会である。また、日本で初めての開催で 100 周年となる歴史的な大会であり、70 から 80 か国・地域から約 3,000 人の選手が集まる国際総合スポーツ競技大会である。
- ・次に具体的な支出項目について説明する。先月開催基本計画を策定したばかりで、これか

ら詳細な計画を作っていくという段階のため、現段階で考えられる主な項目について説明する。

1 点目は仮設等であり、競技会場内における更衣室やドーピング検査に必要な場所など、仮設で整備することなどを検討している。

2 点目は輸送であり、約 80 カ国から来日する選手団約 6,000 人の競技会場までの交通手段の用意などを検討している。

3 点目はセキュリティであり、競技会場等における立ち入り禁止エリアや選手の動線管理、観客の安全と地域への影響を最小化するための整備誘導等の実施を検討している。

4 点目はオペレーションであり、21 競技 19 会場の審判員の手配や会場オペレーション、アンチドーピング、医療体制等に係る準備・運営を検討している。

最後 5 点目が管理・広報であり、大会概要、競技スケジュール、ボランティア募集などの業務を検討している。

- ・次に収入について説明する。主な収入として寄附と協賛を考えている。寄附については、より多くの都民国民の方から参画・支援を頂くことで、あらゆる人が協働して大会を作り上げていくといったコンセプトのもと、広く皆様から募集をしていきたいと考えている。

募集方法として通常の指定口座への振り込みの他、クラウドファンディングなども活用し、取り組んでいくことも検討していきたい。また協賛についても、本大会に賛同する企業等から協賛の形で資金を集め、事業に活用していけるよう検討を進めていきたい。特に、企業などのサポートを得ることにより、デフリンピックの魅力を広めていきたいと考えている。

- ・これらの主な支出、収入を踏まえて、現時点で検討している大会規模について説明する。仮設等の項目から管理・広報までの項目に予備費を加え、現時点で計 130 億円の大会規模を想定している。ただ、これからそれぞれの項目について詳細な計画を作っていく段階であるため、現時点での概算の数字ということでご承知いただきたい。
- ・経費の財源については、寄附・協賛あるいは各種助成金、民間資金を極力集め、開催の経費に充てたいと考えているが、不足する分については、いわゆる公的資金の投入も不可欠だと考えている。

こちらについては、国や東京都の経費ということになるが、東京都の予算については年度ごとに都議会の承認を得て決まるものであり、現時点で詳細な数字を計画に出すことが難しい状況である。そのため、東京都において、最終的には取りまとめて公表したいと考えている。

【質疑応答】

(久松委員長)

- ・出席者の方々から質疑応答を行い、採決に入りたい。議題（1）大会基本計画を踏まえた今後の対応について皆様いかがか。

(延興委員)

- ・大会規模もだんだん見えてきており、これを基に準備をスピードアップしていく中、経費の管理はとても大切だと思う。競技や大会が上手くいっても経費がオーバーすると、大会自体が失敗だと思われてしまいかねない。今後、物価や人件費が急に上がることも想定される。ますます工夫と節約をし、この大枠を下回る形で大会を進めることが後々のデフス

スポーツの発展にとってとても重要なことであるので、経費の管理をしっかりとお願いしたい。

- ・寄付、協賛で目標金額を集めることも大切だが、それ以上になるべく多くの方、特にきこえる人や今までデフスポーツを知らなかった人に、少額でも参加していただくというのがとても大事だと思う。そこを工夫していただきたい。
- ・また、協力してくださった方が応援してよかった、大会後もデフスポーツ、パラスポーツを応援していこうと思えるような仕組みや仕掛け作りの工夫も必要だと思う。

(薬師寺副委員長)

- ・もし絞れるところがあるのであれば、徹底的にもう一度経費の見直しの点についてお願いしたい。なるべく絞れるところはしっかり絞り、ボランティアベースでできるところはボランティアでお願いをする。
- ・人件費についても、手作りの大会であり、心温まる大会にするということを中心として考えていただければと思っている。東京都の皆様だけではなく全国の皆様の善意で作り出された大会というところが成功につながっていくのではないかと思う。

(久松委員長)

- ・では、採決に入る。議題（1）大会基本計画を踏まえた今後の対応について、ご承認を頂ける方は挙手をお願いしたい。
- ・全会一致で可決のため、議題1については承認された。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・次に、報告に入る。まず、利益相反管理委員会の開催について報告させていただく。

○報告（1）利益相反管理委員会の開催について

(倉野事務局長)

- ・本委員会は運営委員会の事業活動における取引の公正性や信頼性を確保するため、連盟理事、監事および運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員の利益相反関係を審査するものである。11月29日に第1回委員会を開催、今後も随時開催する。
- ・委員会では、委員長及び副委員長の決定、役職員等からの利益相反自己申告書の審査及び利益相反管理チェックシートの確認および役職員等への利益相反研修計画等について、審議を行った。
- ・利益相反管理規程第3条より、委員長は濱田豊彦氏、副委員長は田門浩氏が互選により選出された。
- ・役職員等からの利益相反自己申告書の審査及び利益相反管理チェックシートの確認については、利益相反に関する認識や取引状況、他団体役員兼任状況のチェック等を行い、利益相反はないことが確認、承認された。役職員等への自己申告書等の配布が遅れたため、委員会までに徴収できなかった残る役職員等の審査、確認は次回の委員会で行う。
- ・役職員等への利益相反研修計画については、本年度は2回、役職員等へ周知及び研修を行うこととし、その内容は役職員等への利益相反に関する意識の浸透や理解促進を図り、利益相反取引を未然に防ぐことを目的とするものとする。

○報告（2）コンプライアンス委員会の開催について

(倉野事務局長)

- ・当委員会は、運営委員会のコンプライアンスの推進に係る重要な方針の策定や啓発、連盟理事、監事および運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員の違反への対応について、報告・助言・提言を行うものである。12月7日に第1回委員会を開催した。
- ・委員会では、委員長及び副委員長の決定、2023年度コンプライアンス推進計画、運営委員会におけるガバナンスの確保、役職員等へのコンプライアンス研修計画等について、審議を行った。
- ・本委員会規程第4条2項により、互選にて委員長は森せい子氏、副委員長は川根紀夫氏が選出された。
- ・次に、コンプライアンスの推進計画及び方針を審議し、承認された。なお、策定された推進計画及び方針に基づき取り組むにあたり、進捗状況を管理していくことになる。
- ・運営委員会におけるガバナンスの確保については、スポーツ庁が策定した指針の達成状況のチェックリストに基づき、その達成状況について確認、審議をした。
- ・役職員等へのコンプライアンス研修計画については、本年度内に1回、役職員等へ周知及び研修を行うこととし、その内容は法令遵守についての意識向上を図り、コンプライアンスの推進を図ることを目的とするものとする。

【意見交換】

(久松委員長)

- ・それではここで、出席者の方々から意見を頂ければと思う。

(横山委員)

- ・利益相反管理とコンプライアンスの取り組みが着実に進んでいると確認をさせていただき、安心している。スポーツ大会に対する厳しい目もある中で、こうした外部の専門家の方々に入ってチェックをしていただきながら、取り組みを進めていくことが大変大事なことだと思う。
- ・東京都の中でも有識者会議を持っており、その中でデフリンピックの運営、特にガバナンス、コンプライアンスの取り組みについて報告、確認いただき、しっかりできているということで評価いただいている。今後とも着実に進めていただくようお願いしたい。

(石原委員)

- ・コンプライアンスというのは非常に重要であり、十分に事前準備をしているということが重要と思う。やはりここは重要な部分であるので事務局、東京都の皆様に色々とお願ひしたい。

(畑中委員)

- ・一点質問があり、スポーツ庁策定のガバナンスコードについて、先に進まないといけないものもあるので、当然序盤だと思うが、大体で良いので何割くらい達成しているのかということを教えていただきたい。
- ・東京オリンピックの件で有罪判決が出たり、主犯格と言われている元理事の方の裁判が始まったりということで、世間の目もより一層厳しくなっている。また、コンプライアンスのところで達成状況を公表していく予定というのがあったが、この先何回かおそらくスポーツ庁から事後説明をするよう求められることがあると思うので、その点もここにいる全員で気を引き締めてやっていければと思う。

- ・コンプライアンスと利益相反の研修について、対象に役員も入っていた。東京五輪ではコンプライアンス研修をたくさんやっていたが役員はそこには含まれていなかったもので、今回役員を対象に含めていることは大変素晴らしいことであり、評価されるのではと思う。

(倉野事務局長)

- ・スポーツ庁策定のガバナンスコードの達成状況は今どの程度なのかというご質問についてだが、色々と助言を頂きながら調整しているところ。私たちとしては達成したと思うが、まだまだ未達成だ、というようなご指摘も頂くかもしれない。大会終了まで十分注意しながら進めたいと思う。段階的に達成状況については当連盟のホームページで公表していく予定になっている。随時更新しつつ、また皆様にも報告させていただく予定。

(早瀬委員)

- ・今回、ガバナンスとコンプライアンスについての問題を非常に手厳しくやっていくという方針は非常に良いことだと思う。
- ・私は自転車競技団体に所属しているが、今、ガバナンス等のチェックを受けている立場である。トップの組織である運営委員会がしっかり頑張っても、下部組織、例えば競技団体や全国各地の聴覚障害者団体といった各団体がデフリンピックに関わるようなとき、それぞれが問題を起こして、失敗してしまう可能性も考えられると思った。こちらについて、上の組織だけではなく下部組織、関係団体に対しても、1年に1回、例えば研修会を開いていくとか、研修会のテーマにこういうことを入れるとか、また抜き打ちでチェックをするとか、そういういろんなやり方で常にこれを意識できるような環境を作っていくことも大事な視点ではないかと思う。上も下もみんなそれぞれが透明性を図っていくという、そういう大会にしたいなと、その準備段階が非常に大事なかなというふうに考えている。

(薬師寺副委員長)

- ・私も運営委員会に所属していることを公開したところ、利権に絡むのかという批判の声を頂いた。そのため事あるごとに、私どもは透明性の高い運営を図っていく予定であることを公開していただきたいと思っている。
- ・先日のエンブレムもそうだが、学生の皆様方が考えてくださり、中高生の投票で決定した。その中には私どもの思惑などは一切反映なかったということについて、そこは高く評価されているとの意見が委員会でも聞かれたところである。そういうことも含め、私どもがどのような立場でどのような運営をし、かつ、しっかりガバナンスコードも遵守しているということをさらに公開する。そういった場も必要なかなと考えているので、是非連盟の皆様方も含めご協力いただきたいところである。そうでないと、私ども運営委員会の委員についても何か悪いイメージをもたれてしまう。このようなことも認識を頂いたうえでの公開方法もお願いしたいと思っている。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・本日は皆様のご意見をたくさん頂いた。改めてお礼申し上げます。皆様からのご意見をしっかりと受けとめ、コンプライアンス、そして利益相反といった各種問題に関心を高め、そして都民国民の皆様にとってもこのような問題は非常に関心の高い問題であるので、このことを我々が重視しながら運営をしっかりと作っていきたいと思う。透明性の高い大会になるよう

に努めてまいりたいと思う。

- ・本日は皆様からのご協力のおかげをもって、大会基本計画を踏まえた今後の対応についてご承認を頂いたこと、こちらに対して感謝申し上げます。
- ・運営委員会について今年は最後の開催ということになるが、運営委員会の委員の皆様方には各地での各立場でのご協力を頂いたところ。ご配慮に対しても、委員長として改めて皆様に感謝申し上げます。
- ・これにて、第4回運営委員会は終了する。来年もどうぞよろしくお願いしたい。

以上